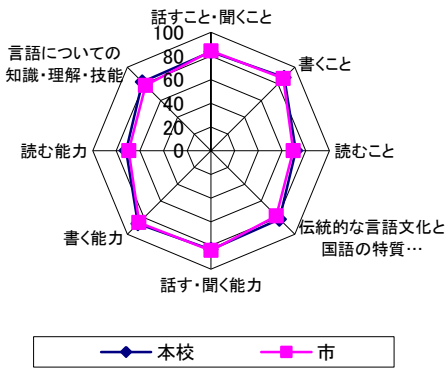


宇都宮市立一条中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	83.5	84.3	81.2
	書くこと	87.5	86.4	74.0
	読むこと	71.6	69.5	64.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.9	77.9	70.6
観点別	話す・聞く能力	83.5	84.3	81.2
	書く能力	87.2	86.0	74.2
	読む能力	71.6	69.5	64.8
	言語についての知識・理解・技能	82.0	78.1	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（国語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

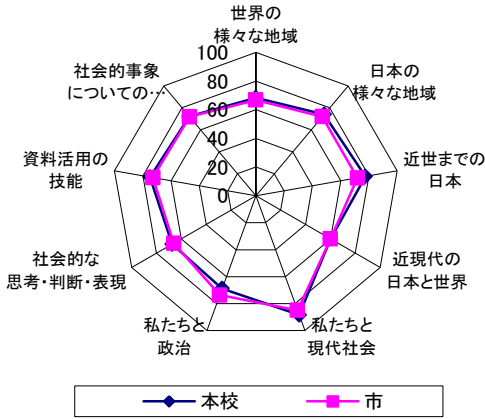
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話の内容を正確に聞き取る」や「話の流れを正確にとらえて、適切な発言をする」では、市の平均を2～3ポイント上回った。 ●役割に応じた発言者の「話し方の工夫を聞き取る」設問が3～4ポイント市を下回り、全体として0.8ポイント下回る結果であった。	・授業の中で、他の意見・考えをしっかりととらえ、その上で自分の考えを根拠をもとに話すことに取り組んでいく。 また、効果的な話し方・発表の仕方について、音声教材を用いながらどのような点に工夫すれば良いのかを重点的に取り組んでいく。
書くこと	○指定された段落、字数、内容で自分の考えを書くことに関して、全体として市の平均より1.2ポイント上回っている。 ○指定された段落数、字数、内容で表現できる生徒が多い。 ●自分の意見とその理由は書けても、最後のまとめが書けない生徒が市より2ポイント多い。	・説明的文章の読み取りの中で、筆者の意見・考えとその理由・根拠等の関係を重点的にとらえ、さらに吟味していくことを取り入れる。 ・特に、自分の意見とそれを支える根拠との関連について、理解が不十分で、「まとめ」をどのように表現するか迷う生徒もいるため、書き方や表現パターンを示し、短作文を書きお互いに読み合うことを通して、理解させていく。
読むこと	○説明文の読み取りにおいて、「文章の構成や展開をとらえる」では、市の平均より10ポイント上回っている。また、文学作品の読み取りにおいて、「登場人物の心情をとらえたり推測したりする」では、市の平均を3ポイントほど上回っている。	・説明文の読み取りにおいては、構成や展開の仕方を、自らの書く力の向上へとつなげることを意識しながら、指導を行う。 ・文学作品の読み取りでは、「表現の特徴をとらえる」において、市の平均を3ポイント上回っていないながら、「話すこと・聞くこと」での「話し方の工夫を聞き取る」につながっていないので、改めて読み取りと聞き取りの関連を図りながら指導を行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・漢字の読み書きにおいて ○「第3学年までの学習した漢字の読み」、「小学校で学習した漢字の書き」とともに市の平均を上回っている。 ○「文法・語句に関する知識」においても市の平均を上回っている。 ○「古典の内容を読み取る」では「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」と「文章の展開に即して内容をとらえる」では、市の平均を約10ポイントほど上回っている。	・「漢字の読み書き」、「文法・語句に関する知識」「古典の内容を読み取る」では、ポイントが市の平均を上回っているとはいえ、あくまでも平均で、個人差があることも事実である。適切な指導（例えば、ICT機器活用）を効果的に活用しながら、繰り返しを重視し、指導を行う。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	世界の様々な地域	68.4	66.8	54.1
	日本の様々な地域	74.1	72.1	63.4
	近世までの日本	77.5	72.0	62.0
	近現代の日本と世界	60.1	60.0	55.2
	私たちと現代社会	88.4	85.0	73.0
	私たちと政治	68.8	73.7	71.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	67.4	66.1	52.0
	資料活用・技能	74.8	72.8	63.0
	社会的な思考・判断・表現	72.2	72.0	64.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善 ○良好なもの ●課題が見られるもの

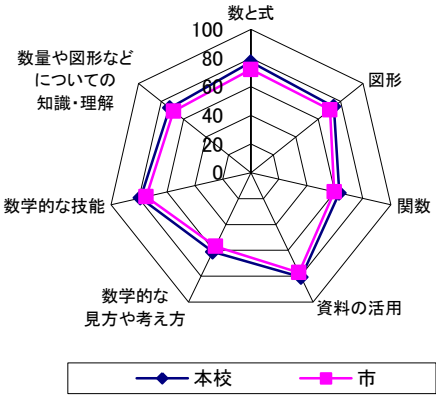
領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域	○領域別正答率では、市の平均を1.6ポイント上回り、概ね良く理解されている。特に、アジア州の人口分布に関する地図を読み取る設問は、市の平均を4.1ポイント上回った。 ●イギリスの貿易相手国の変化の理由について考える設問は、正答率が市の平均を1.7ポイント上回ったが63.4%であった。	・地理的分野では、世界の諸地域における特色ある事象を他の事象と有機的に関連付けて地域的特色をとらえる必要がある。 ・特に、イギリスの貿易相手国の変化の理由については、統計資料等を読み取ることで、社会的な思考・判断・表現の力を積み上げられる学習活動を実施させたい。
	日本の様々な地域	○領域別正答率では、市の平均を2.0ポイント上回り、概ね良く理解されている。特に、北陸地方で見られる地場産業についての設問は、市の平均を9.4ポイント上回った。 ●中央高地の農業に関するグラフを読み取る設問は、正答率が市の平均を3.9ポイント下回って73.9%であった。	・地理的分野では、日本の諸地域における特色ある事象を他の事象と有機的に関連付けて地域的特色をとらえる必要がある。 ・特に、日本の主な自然災害については、分布地図等を読み取ることで、社会的な思考・判断・表現の力を積み上げられる学習活動を実施したい。
歴史	近世までの日本	○領域別正答率では、市の平均を5.5ポイント上回り、良く理解されている。特に、江戸時代の農業の発達の背景について、資料を読み取って説明する設問は、市の平均を9.3ポイント上回った。 ●江戸幕府の大名統制に関する資料を読み取る設問は、正答率が市の平均を1.5ポイント下回って79.1%であった。	・歴史的分野では、近世までの我が国の歴史の大きな流れを理解させ、各時代の特色や基礎的な内容の定着を図る必要がある。 ・特に、江戸時代の大名統制については、資料等を読み取ることで、時代背景をとらえて内容を身に付けられる学習活動を実施したい。
	近現代の日本と世界	○領域別正答率では、市の平均を0.1ポイント上回り、ほぼ同率である。特に、日本の産業革命が貿易に与えた影響について、資料を読み取って考える設問は、市の平均を4.4ポイント上回った。 ●朝鮮戦争の影響についての設問は、正答率が市の平均を6.1ポイント下回って60.4%であった。	・歴史的分野では、近現代の我が国と世界の歴史の大きな流れを理解させ、各時代の特色や基礎的な内容の定着を図る必要がある。 ・特に、朝鮮戦争については、資料等を読み取ることで時代背景をとらえて内容を身に付けられる学習活動を実施したい。
公民	私たちと現代社会	○領域別正答率では、市の平均を3.4ポイント上回り、概ね理解している。特に、現代社会における情報化の進展に関する資料を読み取る設問は、市の平均を5.7ポイント上回った。 ○よりよい社会生活を営むうえでの、対立・合意・効率・公正についての設問は、正答率が市の平均を1.3ポイント上回って91.8%であった。	・公民的分野では、現代社会における政治・経済について理解させ、社会的な思考・判断・表現の力を高めさせる必要がある。 ・特に、現代社会における国内外の出来事については、より新聞・テレビ等の情報活用を図りながら興味・関心を高められる学習活動を工夫したい。
	私たちと政治	●領域別正答率では、市の平均を4.9ポイント下回り、低い正答率である。特に、議院内閣制という用語で示される、国会と内閣の関係についての設問は、市の平均を11.0ポイント下回った。 ○地方自治における直接請求権について、用語や具体的な手続きについての設問は、正答率が市の平均を0.7ポイント上回って64.9%であった。	・社会的な思考・判断・表現の力を十分身につけさせるため、用語等について基礎・基本の定着を図る必要がある。 ・併せて、用語等については、板書事項の工夫及びワークブック等による反復学習を実施したい。 ・特に、国会・内閣・裁判所のしくみ及び役割等を時事問題とも関連付けて考え、内容を深められる学習活動を実施したい。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	77.2	72.1	70.7
	図形	73.9	70.5	58.1
	関数	63.2	59.6	52.1
	資料の活用	80.8	77.2	64.1
観点別	数学的な見方や考え方	61.3	56.9	47.7
	数学的な技能	79.0	74.9	69.2
	数量や図形などについての知識・理解	72.4	68.9	59.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(数学では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

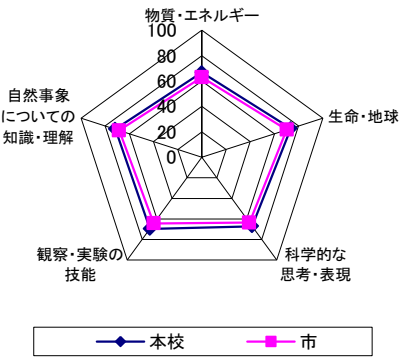
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平均正答率は市平均を5. 1ポイント上回っている。 ○累乗を含む計算、因数分解、方程式の解法など、計算全般においてよくできている。 ●2次方程式の解法の意味を説明する問題では、市平均を上回っているものの十分ではない状況が見られる。	・方程式の解法について、方程式を解く技能に加えて内容の本質的な理解を十分に図りたい。方程式を解く技能を十分に習得した後、機械的な解法の基となる考えについて復習する。自分のことばで表現すること、他者に説明することを通して、内容の本質的な理解に加え、説明力の向上を図る。
図形	○平均正答率は市平均を3. 4ポイント上回っている。 ○図形の基本的性質については十分に理解できている。 ●三角形の合同の証明問題では、市平均を上回っているものの平均正答率が58. 2%と低い。	・三角形の合同の証明において、三角形の合同条件を構成する3組の等しい辺や角が具体的に示されていても、結論に至るまでの過程を論理的に記述できない生徒も多い。あることから導かれることがらは何か、またその根拠は何か、根拠を述べて説明する活動を繰り返す行うことで、論理的思考力の向上を図る。
関数	○平均正答率は市平均を3. 6ポイント上回っている。 ○数学的な技能に関する問題はよくできている。 ●数学的な見方や考え方に関する問題の一部で市平均を若干下回るものがあり、活用力不足が見られる。	・身近な事象を関数として捉えるなどの活用力を必要とする問題において、類似した問題を解いた経験に基づいてのみ解決を図れる生徒は多いが、身につけた数学的な見方や考え方を基に多様なアプローチで問題に取り組める生徒は少ない。数学的な見方や考え方を具体的に生かす課題への取り組みを授業でより多く扱い、活用力の育成を図る。
資料の活用	○平均正答率は市平均を3. 6ポイント上回っている。 ○確率、資料の活用ともによくできており、平均正答率80%程度の問題が多い。 ●相対度数を求める問題の平均正答率は、市平均を上回っているものの70%程度で他の問題に比べて低い。	・多様な見方で資料の分析を行う授業を通して、相対度数、中央値などの代表値を求めたり活用したりする経験を重ね、それぞれの代表値の意味を正確に理解し正しく活用できる力を身につけさせる。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.8	63.0	57.9
	生命・地球	73.6	70.2	65.2
観点別	科学的な思考・表現	67.1	63.5	57.5
	観察・実験の技能	69.6	64.3	61.5
	自然事象についての知識・理解	71.7	68.6	64.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

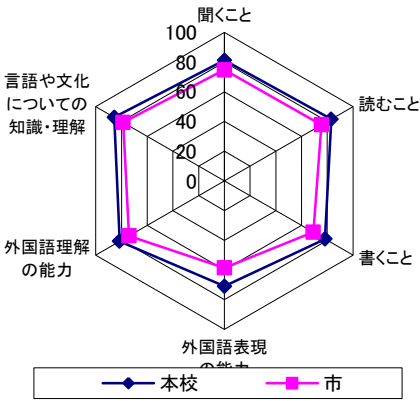
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○この領域では、市の平均を3.8ポイント上回った。 ○弦の長さや張る強さと音の高低の関係についての正答率は83.6%であり、市よりも7.9ポイント上回った。 ○苦手意識の高い電流の性質の問題についても良好で、特に電力に対する理解は市よりも7.7ポイント上回った。 ●有機物と無機物についての理解の正答率が45.5ポイントと不十分な結果となった。	・有機物と無機物を分類する実験において、実験そのものを適切に行うことはもちろん、何のためにその実験を行う必要があるかということや、実験結果の予想や、実際に実験をした結果どういことが新たに明らかになったのかをきちんと整理させていくことで、実感の伴う、より深い理解をさせていく。
生命・地球	○この領域では、市の平均を3.4ポイント上回った。 ○植物の分類に関する正答率が高く、特に双子葉類の葉脈と根のようすについての正答率は83.6%で、市よりも6.6ポイント上回った。 ○無脊椎動物についての正答率も88.1ポイントと高く、市より7.5ポイント上回った。 ●両生類とハチュウ類に共通する特徴、共通しない特徴についてと、前線の構造に対する正答率が共に59.0ポイントと不十分な結果となった。	・両生類からハチュウ類への進化において、どういう部分でより有利になっていったのかについてや、水中から陸上に進出した結果何が不用になり、何が新たに必要になっていったのかを予想させながら指導していく。 ・前線の見分け方や、その付近の天気のような指導だけに止まらず、実際に簡単な天気図を作成させるなどして、前線や描く機会を授業の中に組み込んでいく。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	81.2	74.8	66.0
	読むこと	83.0	75.5	66.9
	書くこと	78.2	69.1	64.8
観点別	外国語表現の能力	71.0	58.5	53.9
	外国語理解の能力	81.4	74.1	65.7
	言語や文化についての知識・理解	85.6	78.8	71.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○聞くことの平均正答率は、市の平均より6.4ポイント高い。絵を適切に表している英文を聞き取る事に関しては、90%を超える正答率であった。 ●ある程度の長さのある英文から数や曜日などの細かな要点を答える問題では、65%～70%の正答率であった。	・ペアで、友人の話した英語の要点をとらえながら聞き取る活動を通して、聞くことの練習を継続する。 ・単元の導入部分で、ある程度の長さの英文を聞き取る際、聞き取るポイントを明確にすることが必要である。単元のまとめの部分でも、同じ内容を繰り返して聞き取らせ、内容理解の確認を行う。
読むこと	○読むことの平均正答率は市の平均より7.5ポイント高い。受け身の文章の読み取り、長文から内容を読み取る問題では、90%を超える正答率であった。 ●現在完了形の文章の読み取り、対話の流れとグラフから数を判断する問題では、70%～75%の正答率であった。	・2年生までに習った内容での正答率が高かったのは、継続的に受け身の文を学習した結果であると思われる。 ・3年生で習った内容については、さらに現在完了形や関係代名詞の継続的な学習を続けることで内容の定着を図ることが必要である。 ・英文からだけでなく、視聴覚教材を利用して総合的に読み取る力を付ける指導内容を見直す。
書くこと	○書くことの平均正答率は市の平均より9.1ポイント高い。活用頻度の高い単語や単語を並べかえて英文にする問題の正答率は、90%以上であった。 ○自分の経験など与えられたテーマで英文を書く問題では、80%の正答率であった。 ●場面に応じて相手の希望をたずねる英作文の正答率は、50%未満であった。	・与えられたテーマで、自分のことを表現することは2年時から継続的に行ってきたので、3文程度の英文で書くことの正答率の向上になった。 ・場面に応じて相手にたずねたり、依頼したりする英作文の定着を図るために、対話の中で適切に相手にたずねる練習と、1年時からの疑問文の反復練習を行う。